

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年5月20日
明治大学の所属学部・研究科	情報コミュニケーション(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2023年5月3日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	カナダ
留学先大学	ヨーク大学(日本語名) York University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/
留学期間	2022年9月～2023年4月
留学先大学で在籍した学年	特にない 年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): 教養学部 (現地言語での名称): Liberal Arts & Professional Studies <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月上旬～12 月下旬 2 学期: 1 月上旬～4 月下旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	約 55000 人
創立年	1960 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (CA\$)	日本円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	7,788	790,000円	グレンドンキャンパスの寮
食費	5,000	510,000円	meal plan + 外食
図書費	350	36,000円	
学用品費	0	0円	
携帯・インターネット費	320	32,700円	月7ギガの esim
現地交通費	0	0円	無料のシャトルバス (<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	550	56,000円	
被服費	200	20,444円	冬用コート+ウィンターブーツ
医療費	0	0円	
保険費	1698	173,415円	形態:UHIP 756\$, 明治大学保健 96,415円
渡航旅費	5113	522,000円	カナダ-日本の往復渡航費+国内旅行など
ビザ申請費	235	23,995円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	21,254	2,170,000円	1ドル=102円 (2023年5月)

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:成田空港	目的地:トロント・ピアソン空港 経由地:
復路 出発地:トロント・ピアソン空港	目的地:羽田空港 経由地:
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: Air Canada 料金: 282,760円	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:	
航空券購入方法	
<input checked="" type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: STA travel)	
<input type="checkbox"/> インターネット(サイト名:)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: Wood Residence) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

大学から送られてくるメールに従って寮の申請を行いました。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

留学する前にヨーク大学から、本来勉強する予定であったキールキャンパス内の寮がコロナの関係で確保できず、キールキャンパスからシャトルバスで30分ほどのところにあるグレンドンキャンパスの寮であれば確保できると連絡が来ました。シャトルバスは土日は運航せず、平日も一時間に約一本と少なかったため、当初は不便に感じましたが、グレンドンキャンパスのほうがキールキャンパスに比べ、生徒数が少ないため静かで、周りも高級住宅地だったため治安が良かったので、結果的にはグレンドンキャンパスで良かったなと感じています。ひとつ特に不便だったのは、チェーン店のご飯屋さんも多いキールキャンパスに比べグレンドンキャンパスにはご飯を提供する場所がカフェテリアしかなく、種類も片手で数えられる程度だったので、授業がない日でもご飯を食べるためにキールに行っていました。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

外務省にメールアドレスを登録し、危険情報を手に入れるようにしました。また、危険地域については、インターネットで調べたり、現地の友人に聞いたりして情報を収集しました。オンタリオ州内で事件が発生するとスマートフォンにアラートが通知される仕組みになっていたため、事件が起きた場所と自分のいる位置との距離を調べたりしました。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネットは基本的に安定していたのですが、テスト期間に不安定になったりすることがありました。私はオンラインでのテストもあったので、その際ネットが繋がったり切れたりを繰り返していたのでひやひやしました。また、一度半日間wifiが全くつながらなくなった時がありました。町にあるカフェやレストランはwifi接続が可能なところが多かったのですが、必ずしもどこにでもあるわけではなく、また電波も弱いことが多いのでsimは買ったほうが良いと思います。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現金は日本で両替して持って行った約400ドル、現地で足りなくなった時用にもっていった現金を両替してちょうど足りました。私は現地で口座を開設しませんでした。ヨーク大学の学生であれば簡単に口座は開設できるそうです。あとはクレジットカードを利用していました。念のためvisaとmastercard一枚ずつ持っていきましたが、visaしか使いませんでした。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

インスタント味噌汁、お土産で渡せる日本のお菓子(現地でも買えますが高いです)、薬

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
27 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 基本的になんでも受けられますがアート系の授業など、一部履修できないものがあります。一年間で履修できる単位数は 36 単位です。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Fake News,Fact-Finding and the Future of Journalism	フェイクニュース、真実の解明とジャーナリズムの未来
科目設置学部・研究科	AP・COMN
履修期間	秋学期
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回
担当教授	Derek Hrynshyn
授業内容	2016 年アメリカ大統領選挙でトランプ大統領の発言によって話題になったフェイクニュースをもとに、現代の情報収集の方法やその抱える問題点、真実のニュースの見極め方、インターネットを通して行われるニュースの選別、ジャーナリズムのあり方等を学ぶ。
試験・課題など	毎週のリーディング、エッセイ×3、中間試験、期末試験
感想を自由記入	SNS を通じてニュースを取り入れることが増えた現代において、インターネットアルゴリズムがいかに私たちそれぞれに供給する情報を取捨選択しているのか、フェイクニュースとはもともとどのようなものであるのか等を知っていることは情報社会に住む我々にとって必要な教養だと思います。実際に、この授業を通してフェイクニュースの成り立ちや細かい種類などを学んだことで実生活で触れる情報に対して慎重に反応することができるようになったと感じています。この授業は、他の授業に比べチュートリアルを受け持っていたティーチングアシスタントが厳しく、毎回のチュートリアルでの発言やエッセイなど、大変なことも多かったですが、結果的に受講してよかったと思っています。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Communication & Media		コミュニケーション&メディア入門	
科目設置学部・研究科	AP・COMN		
履修期間	通年		
単位数	6 単位		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回		
担当教授	Robert J. Heynen		
授業内容	メディアがコミュニケーションにどのように作用するのか、コミュニケーションメディアにおける理論、メディアの種類や情報が伝わる仕組みについて学ぶ。		
試験・課題など	秋学期:エッセイ×2、中間試験、プレゼンテーション 冬学期:エッセイ×2、期末試験、プレゼンテーション、毎週のリーディング課題、		
感想を自由記入	コミュニケーションメディア学の入門講義でした。メッセージが伝わる過程を分解し、理論をもとにひとつずつ分析したり、どのような媒体がメディアとしての役割を果たしているのかについて学んだりするのはとても面白かったです。講義自体は基礎知識を教えることがメインですが、チュートリアルや課題のエッセイでは、学んだ理論などを応用し、身の回りにあるケーススタディを分析していきました。1年生が多く取る授業であるため、エッセイの書き方についての先生たちからのアシストも手厚かったので、エッセイに自信がない人にもおすすめです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Myth and Imagination in Greece and Rome		ギリシャ、ローマ神話	
科目設置学部・研究科	AP・CLST		
履修期間	通年		
単位数	9 単位		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	zoom 講義と対面チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 240 分が 1 回		
担当教授	Sarah Blake		
授業内容	秋学期はペルセウスやイアソン、冬学期はオデュッセウスをメインの題材に、ギリシャ神話から当時の人々の価値観、生活様式などを見出す。また、神話に出てくる行動を細かく分析し、考察する。		
試験・課題など	毎週のリーディング、秋学期:エッセイ×2、小課題、中間テスト、冬学期:エッセイ×2、小課題、期末テスト		
感想を自由記入	私が個人的にギリシャ神話が大好きなので受講しました。いままでおとぎ話の一種として読んでいた神話を細かく分析し登場人物一人ひとりの行動の背景にある心理、価値観について論理的に考察するのはとても面白かったです。授業内で使われる文献が古いため、現代では使われていないような古典的な英語が出てきたり、神々の名前も日本で使われている読み方と全く違うので、基礎知識があってもついていくのは大変でしたが、ギリシャ神話が好きであればぜひとってみたい授業でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Intro. to International Develop. Studies		国際開発学入門	
科目設置学部・研究科	AP・SOSC		
履修期間	通年		
単位数	9 単位		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	オンライン講義+対面チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 240 分が 1 回		
担当教授	Eduardo Canel		
授業内容	国際開発学の入門編です。文化的、技術的、社会的側面から開発について考える。また、現在推進されている開発の問題点や、それをもとにどのような解決策があるのか、どのような援助が必要なのかを模索する。植民地時代からの歴史や、ネオリベラリズム等の開発にかかわる概念について学び、それらの成果と残した問題について学ぶ。		
試験・課題など	毎週のリーディング&クリティカルクエスチョンの作成、秋学期:エッセイ×1、中間テスト、冬学期:エッセイ×2、期末テスト		
感想を自由記入	現在でも答えが見つからないような開発の問題点なども扱い、ディスカッションしていくので、チュートリアルの難易度は私が受講した授業の中で最難関でしたが、講義を聞き、課題を聞いて自分なりの意見を持っていくと今まで自分が無かった視点や問題点をディスカッションを通して発見できて、本当に有意義なチュートリアルの時間を過ごせました。また、様々なバックグラウンドを持った多様性の国、カナダらしく、チュートリアルに参加した学生は日本人である私を含め、アフリカ系、アジア系、ヒスパニック、欧米の白人など、本当に多種多様な国から来た人ばかりだったので、実際に現地で行われている開発と原住民が抱えている不満、問題等生の声を聴くことができ、より授業で学んだ知識をリアルな問題として実感することができました。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。 就職する予定ではありますが、詳しいことはまだ考え中です。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
私の通っている学部の単位システムだと、留学中にとった単位がかなり削られてしまい、3年生の秋学期フル単、4年生もしっかり授業に出なければいけない状態で私自身就職活動と勉強を両立できるか今すごく不安を感じていますが、留学を通して思ったことは、私たちには大学を四年で卒業し、就職する以外の様々な選択肢が広がっているということです。留学という経験も就職活動の上でのアピールポイントの一つにもなると思うので、就職活動を理由に就学を断念するのは少しもったいないかなと思います。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	IELTS の勉強
	8月～9月	留学計画書等作成、選考
	10月～12月	選考、留学先決定
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	ビザ申請・取得、寮の申請、航空券購入
	8月～9月	渡航、秋学期開始
	10月～12月	中間試験
留学/帰国年	1月～3月	冬学期
	4月～7月	期末試験・帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

大学に入る前から大学に入学したら絶対に海外留学したいと思っていました。今回、留学先にヨーク大学を選んだ理由は、一つ目にカナダという国が持つ特性、二つ目にヨーク大学の授業があります。カナダは移民大国ということもあり、大学にも様々なバックグラウンドを持つ学生がおり、それぞれがお互いの性格、身体的、心理的特徴をリスペクトしながら関わっています。彼らとの交流を通して、私も新たな視点を発見し、人を尊重できるだけの教養を身につけた人間になりたいと思いました。二つ目に、以前ヨーク大学に留学した先輩の留学報告書を読み、まさに私の学びたかった講義がヨーク大学にあると思い、志望しました。

留学生生活は大変なことの連続でした。特に学習面において、最初はチュートリアルのディスカッションに全くついてゆけず、授業中一言も発言できずに悔しい思いをしたり、エッセイを書くのに苦戦したり、「日本語では説明できるのに！」と歯がゆい気持ちになったりと苦しいこともありました。その分目標を達成できた時は自分自身が語学力だけでなく人間的に成長できた気がしてとても晴れやかな気分になりました。また、交友関係においては、サークルやヨーク大学で行われている日本語教室へのアシスタントとしての参加などを通じて交友の輪を広げてゆき、これからずっと連絡を取り合っていくと言い切れる友達ができました。

新しい場所で生活することは必ず苦難が伴いますが、実際にはたいていのことは何とかできます。また、留学生生活は得られるものが多いです。私は留学を通して自身の価値観が一新されただけでなく、今まで自分を守るように覆っていた変なプライドや自意識などからも解放されました。さらに勉強を通して今まで興味があったけれど学べない分野を学べたり、生活面では一生ものの友達を得ました。このように大変な思いをした分だけ、留学では楽しいこと、良いことが得られます。なので、もし興味があれば気負いすぎず挑戦してみてください。

留学先決定まで大学での勉強と語学試験の勉強、選考のための計画書作成の両立は大変ですが、その時は行きたい大学のホームページや留学報告書などを見るとモチベーションが上がるのでお勧めです。何かききたいことがあれば私が答えられる範囲でならいつでもご相談に乗るので、ぜひ連絡してください。応援してます！！